10日　金曜

ヨブ

32:1 この三人の者はヨブに答えるのをやめた。それはヨブが自分は正しいと思っていたからである。
32:2 すると、ラム族のブズ人、バラクエルの子エリフが怒りを燃やした。彼がヨブに向かって怒りを燃やしたのは、ヨブが神よりもむしろ自分自身を義としたからである。
32:3 彼はまた、その三人の友に向かっても怒りを燃やした。彼らがヨブを罪ある者としながら、言い返すことができなかったからである。
32:4 エリフはヨブに語りかけようと待っていた。彼らが自分よりも年長だったからである。
32:5 しかし、エリフは三人の者の口に答えがないのを見て、怒りを燃やした。
32:6 ブズ人、バラクエルの子エリフは答えて言った。
　私は若く、あなたがたは年寄りだ。
　だから、わきに控えて、遠慮し、
　あなたがたに私の意見を述べなかった。
32:7 私は思った。
　「日を重ねた者が語り、
　年の多い者が知恵を教える。」と。
32:8 しかし、人の中には確かに霊がある。
　全能者の息が人に悟りを与える。
32:9 年長者が知恵深いわけではない。
　老人が道理をわきまえるわけでもない。

ヨブと友人たちの議論は膠着状態になってしまいました。友人たちは、因果応報という自分たちの主張をするため、経験や伝統を神よりも上とし、ヨブはまた神よりも自分の正しさを上にしていたからです。

エリフは情熱の人でしたが、これまで謙遜に他の人の言うことに耳を傾けていました。だからこそエリフは新たな視点を語ることができました。それは他の人々のように経験や伝統に根拠を置くのではなく、全能者の息すなわち聖霊に聴くべきだということです。しかしながら、彼もまた怒りという感情に影響されてしまったのです。

人間はあくまでも不完全です。しかし、だからこそそれぞれに役割が与えられています。それによって神様の御心に近づいてゆくことができるのです。論争になったときは、「自分が絶対正しい」とは思わずに、相手を尊重しつつ神様の導き出された結果を、従順にまた信頼して受け入れましょう。

ピリピ書に「2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。2:4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」とありますから。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？